

# さいたま市教組新聞

編集・発行/  
さいたま市  
教職員組合  
〒330-0843  
さいたま市大宮区  
吉敷町4-93-5  
大宮教育会館2F  
TEL 641-6763  
FAX 648-3567  
2020. 2. 27(木)  
No. 254

「Next学校の働き方改革フォーラム」～学校×家庭の対話～

## 業務削減を多くが支持

「単なる時間削減でなく、子どものための改革」と理解（保護者）  
「負担軽減が結果的には子ども主体の学びにつながる」（妹尾氏）

### 的確な「やめる」「減らす」の観点 「変える」

（講演者 妹尾氏 強調）

市教委主催で開催された「Next学校の働き方改革フォーラム」～学校×家庭の対話～（2/15（土））は、各校から管理職・一般教員・PTA代表が参加し、会場の

宇由科学館のホールはほぼ満席でした。（学校職員は出張扱いの参加）フォーラムは三部構成で、第一部は、教育研究家の妹尾昌俊氏が、基調講演として、「効果のあ

る働き方改革は、何が違うのか」と題した講演を行いました。氏は今の学校の状況を、  
・今の学校はあまりにも多忙化している  
・時間外の勤務が尋常でない  
・「やりがい」があると  
言って、それがいいとはいえない

てしまつ」と危惧されています。そして多忙は、教師の健康に影響する・教育に影響する・人材獲得に影響する

とし、これを解消するのが働き方改革の目的であること、「やめる」「変える」「減らす」観点での業務改善を行うこと強調して、「それが、真の『子ども向き』のため」の働き方改革になる」とまとめられました。

第二部は、先般、市教委が各学校に取り組ませた業務改善案から「優秀」な取組の発表がありました。700もの改善案は、創意工夫された取組でしたが、削減とはいえない内容でもありました。

第三部のパネルディスカッションは、進行役は学校教育部長。パネラーは、妹尾氏、教育長、市内中学校長、市PTA協議会会長、同副会長の六名が登壇されました。冒頭、教育長は、昨今の教育を取り巻く状況から、「今の指導法では太刀打ちできない」「教員

が学ばなければならない」と、学校現場に今以上の教師の改革意識を求め、進行役も、「教師の自己研鑽が必要」と追随しました。

今回のフォーラムはあくまでも教職員の負担軽減のための「働き方改革」がテーマ。そのため、的外れとも思われるようなこの発言・進行に会場から疑問の声がささやかれるほどでした。

しかし、その後の討論では内容が軌道修正され、中学校長が現場の状況をリアルに報告し、  
・教師は楽をしようとしているのではない  
・物理的に仕事が増えている  
・子どもの問題も増えている（SNSのトラブル）  
・部活問題（専門外の先生が担当する現状）  
・疲弊の原因の中に保護者の理不尽な要求もある

など、今の学校の多忙を引き起こしている切実な問題提起をしました。その後教育長は行政として業務削減の施策の紹介をしまし

学校が保護者の要求を付度しすぎているので、例えば・部活の数を減らすなど、保護者の学校に対する固定観念を無くす必要がある・保護者は「明るい先生」を望んでいる・（働き方改革は）単に時間削減でなく子どものための改革だと理解した、などと現場の状況に理解

見えない改革の姿勢問われる行政の責任フォーラムに参加しての市教組見解

行政として、広く市民にも訴えながら働き方改革を考えていく姿勢は、教師のため、そして望ましい教育活動のため大切です。教育長もフォーラムの冒頭で、「教師が疲弊しているのは子どものためにはならない」と、述べています。しかし、そのための解決策は残念ながら現場任せとしか言えない状態です。700もの業務削減策を募つたにもかかわらず、クローズアップされたものは直接的な削減策ではありませんでした。さらに第三部冒頭での教育長発言は、現代の要求にかなった教育の推進、教師のより多くの研鑽の勧めでした。その意見はその後の討論で話題にはならなかったも

を不十分発言が続きました。討論の最後に妹尾氏は、「（改革の）理解者は多い。さらに増やしていく必要がある」「身近なことのできることはある」と学校現場を励まし、「負担軽減が結果的には子ども主体の学びにつながる」と働き方改革の目的をまとめ終了しました。

の、条件整備機能を果たすはずの教育行政が現場の努力に改革を押しつけ、自らは新しい施策の提案を現場に導入している状況からは、本気の働き方改革の姿勢は感じられません。その上さらに「変形労働時間制」を強引に導入しようなどという施策は大いに問題があるといわざるを得ません。

行政は、直ちに業務削減の施策を進める必要があります。妹尾氏が述べていたように、「やめる」「変える」「減らす」の観点で業務改善を進めることが大切で、同様に学校も、この意識を持つことが必要だと考えます。



「学校はただの「学校」ではない」というメッセージが書かれています。また、「学校はただの「学校」ではない」というメッセージが書かれています。

「学校はただの「学校」ではない」というメッセージが書かれています。また、「学校はただの「学校」ではない」というメッセージが書かれています。

「学校はただの「学校」ではない」というメッセージが書かれています。また、「学校はただの「学校」ではない」というメッセージが書かれています。

「学校はただの「学校」ではない」というメッセージが書かれています。また、「学校はただの「学校」ではない」というメッセージが書かれています。

「学校はただの「学校」ではない」というメッセージが書かれています。また、「学校はただの「学校」ではない」というメッセージが書かれています。